

対象学科	全専攻 1 年生	科目	応用物理学特論 2	教員	川原琢也
------	----------	----	-----------	----	------

<授業の特色>

大学院生の研究は、最先端の研究現場に飛び込み、専門分野を切り開きつつその結果を常に output していくことが求められる。ここで院生は、学会などで外部に対する発表の機会を通して初めて自らの未習熟な点を認識し、それを専門の勉強にフィードバックするという能動的学習をすることができる。実は、これが学校という存在がなくとも自らできる最も効果的な学習方法である。ところが、まもなく社会に巣立つという大学や大学院の講義でさえ、学生が受動的学習をせざるを得ない形式が続いている。

そこでこの授業では、受講生全員が自らの研究内容を発表し、発表後に行われる質疑応答のやりとりをする形式により能動的学習効果を狙う。専門外の人に対しても要点を押さえ、わかりやすく説明できるよう準備、発表し、的確な質疑応答をする訓練をすることで、自らの研究の本質的なところを知ることができる。発表を聞く側は質問する事を義務とし、採点による発表形式の評価をする事で発表者と自分の発表に活かす。

講義では複数専攻の院生が受講するため、他専攻の研究内容を知る絶好の機会となる。卒業後、実社会に出れば大学（院）の分野わけは存在せず、すべてが融合領域となっている。大学（院）において複数領域が混在しているにもかかわらず、他分野を知る機会がない大学（院）の講義システムに風穴を明け、見識を広げることも重要な目的に位置づける。

これらを通して、自分の専門性と他の専門分野の内容を知る事で縦横の能動的学習効果を狙う。

<評価方法>

授業の目的を達成するために、出席を前提とした積極的な参加を点数化し、それにより評価する。評価項目は、発表と質疑応答、レポート提出、他の発表者に対する質問回数、評価表の提出、などである。試験は行わない。